

指導時期	単元	教材名	配当 時数	教材目標	学習活動の流れ	学習指導要領 との対応 (*は本教科書独 自の言語活動例	評価規準例	評価の観点の例
4月	一言 葉が 照ら し出 す	虹の足	2 (内、書1)	●見えている「虹の足」によって、見えていない「虹の足」について考える。	1 「虹の足」などの比喩的な表現が表しているものを見ながら、感想を交流することをとおしてこの詩にこめられた作者の感動を読み取る。	C(1)ア 伝国(1)イ(イ) 言語活動例 C(2)ア	◇国語への関心・意欲・態度 ・詩を読み、内容や表現の仕方について理解しようとしている。 ◇読む能力 ・「虹の足」と「他人には見えて／自分には見えない幸福」との関連について考えている。 ◇言語についての知識・理解・技能 ・抽象的な概念を表す語句やさまざまな表現方法（表現技法）について理解している。	◇国語への関心・意欲・態度 【Bの判定基準】詩に表されているものの見方や考え方を理解しようとしている。 【Aの具体的な姿の例】詩に表されているものの見方や考え方について多面的に検討し、理解しようとしている。 【Cへの支援】詩に表されているものの見方や考え方、特に「幸福」の意味について身のまわりの生活から考えるように助言する。 ◇読む能力 【Bの判定基準】「虹の足」という具体的な情景と「幸福」という抽象的な概念との間にどのような結びつきがあるか考えている。 【Aの具体的な姿の例】「虹の足」と「幸福」とを結びつける、作者のものの見方や考え方について検討し、評価している。 【Cへの支援】「虹の足」と「幸福」が作者の中でどのような共通性をもっているのかを考えさせる。 ◇言語についての知識・理解・技能 【Bの判定基準】「幸福」という語句の辞書的な意味と文脈上の意味の違いや、比喩を中心とするさまざまな表現技法について理解している。 【Aの具体的な姿の例】「幸福」という語句の文脈上の意味を的確に捉え、この詩に用いられた全ての表現技法について理解している。 【Cへの支援】文脈をたどらせながら「幸福」の辞書的な意味を理解させたり、表現技法の名称（種類）や方法について整理させたりする。
					2 比喩で題名を決め、詩を創作する。	B(1)ウ	◇書く能力 ・描写を工夫して詩を創作している。	◇書く能力 【Bの判定基準】表現技法の意図や方法、効果について理解し、詩を創作している。 【Aの具体的な姿の例】比喩を用いた詩を創作し、他者と交流している。 【Cへの支援】具体的な比喩表現を示したうえで、それぞれのイメージの違いを体験させる。
		【話す聞く】 質問する力をつける	1	(●解答を得るために質問し、答えを考える。)	1 グループで、封筒の中に隠された言葉を当てるために、内容を考えて質問し合	A(1)エ 伝国(1)イ(オ) 言語活動例	◇国語への関心・意欲・態度 ・必要な情報を得るために、積極的に質問を繰り返そうとしている。	◇国語への関心・意欲・態度 【Bの判定基準】必要な情報を得るために、積極的に質問を繰り返そうとしている。

		(●どのように質問すれば必要な情報を得られるかを考える。)	う。	A(2)ア	<p>◇話す・聞く能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要な情報を得るために質問をし、それに対する回答を注意して聞き、自分が考えていた答えと比較している。 <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手や目的に応じて話や文章の形態や展開に違いがあることを理解している。 	<p>【Aの具体的な姿の例】 必要な情報を得るために、どのように質問すれば効果的かを考えながら、積極的に質問を繰り返そうとしている。</p> <p>【Cへの支援】 他のメンバーからの質問を書き出して、参考にさせる。</p> <p>◇話す・聞く能力</p> <p>【Bの判定基準】 必要な情報を得るために質問をし、それに対する回答を注意して聞き、自分が考えていた答えと比較している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 必要な情報を得るために効果的な質問をし、それに対する回答を注意して聞き、自分が考えていた答えと比較して次の質問につなげている。</p> <p>【Cへの支援】 他のメンバーの質問を参考にしながら質問させ、それに対する回答から考えられることを書き出させる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】 相手や目的に応じて話や文章の形態や展開に違いがあることを理解している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 相手や目的に応じて話や文章の形態や展開に違いがあることを理解して、自分の質問や考えの形成に利用している。</p> <p>【Cへの支援】 自分の得たい情報は何かという目的をもう一度確認させ、どのように質問すればその情報が得られるかについて考えさせる。</p>
タオル	6	<p>●描写の効果や登場人物の言動の意味に着目して、作品を読み深める。</p> <p>●少年の気持ちの変化することの意味について、自分の考えをもつ。</p>	<p>1 全文を通して読み、登場人物やあらすじについて確認する。初発の感想を書き、読みの課題を整理する。</p> <p>2 祖父をめぐる人々の思いを捉え、祖父の人物像について考える。</p> <p>3・4 場面ごとの「少年」の心情の変化を捉え、その理由も考える。</p> <p>5 「涙」に着目して、少年の変化を捉える。</p> <p>6 「タオル」が果たした役割について考えをもつ。語り方の特徴とその効果を捉え、まとめた感想を書く。</p>	<p>C(1)ア</p> <p>C(1)イ</p> <p>伝国(1)イ(イ)</p> <p>言語活動例</p> <p>C(2)ア</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 物語を読んで、内容や表現の仕方について感想を交流しようとしている。 <p>◇読む能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てている。 <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 登場人物がさまざまな呼ばれ方をしていることについて考えている。 	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】 作品を読み、内容や表現の仕方について感想を交流しようとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 感想の対象となる部分や表現の特徴を考えながら、交流しようとしている。</p> <p>【Cへの支援】 ポイントとなる表現を確認させながら、作品を再読させる。</p> <p>◇読む能力</p> <p>【Bの判定基準】 「涙」に着目して少年の心情の変化を捉え、「タオル」の果たした役割について考えている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 少年の思いの語り方の特徴に着目し、想像を広げながら読んでいる。</p> <p>【Cへの支援】 「悲しい(悲しむ)」と「涙」が出てくる箇所を見つけさせ、それぞれの違いを考えさせる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】 人物の呼称によって、作品から受ける印象が異なることに気づいている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 人物の呼称が、人物の一般化や固有化に関わっているという表現の効果に気づいている。</p>

							<p>【Cへの支援】「少年」という表現を個別の呼称に置きかえて読ませ、違いを考えさせる。</p>
	【話す聞く】 図表を用いて提案する	4	<p>●台本をもとに、プレゼンテーションをする。</p> <p>●図表などの資料を用いて、構成や展開を考えて話す。</p>	<p>1 全文を読み、図表を用いて提案するために、どのような順序で活動すればよいのかを確認する。</p> <p>2 調査などを行い、収集した情報をもとに、資料を作成する。</p> <p>3 プレゼンテーションのための台本を作る。</p> <p>4 資料を提示しながら、プレゼンテーションを行い、提案のあり方について友達と意見を交換する。</p>	<p>A(1)ア</p> <p>A(1)イ</p> <p>A(1)ウ</p> <p>伝国(1)イ(オ) 言</p> <p>語活動例</p> <p>A(2)ア</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・調べてわかったことや考えたことなどに基づいて発表しようとしている。</p> <p>◇話す・聞く能力</p> <p>・異なる立場を想定して、図表などの資料を用いながら、論理的な構成や展開を考えて発表している。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解している。</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】 調べてわかったことや考えたことなどに基づいて発表しようとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 聞き手を意識して、構成や展開を考え、効果的に自分の考えを発表しようとしている。</p> <p>【Cへの支援】 教科書P36の「プレゼンテーションの台本例」をもとに発表の練習をさせる。</p> <p>◇話す・聞く能力</p> <p>【Bの判定基準】 異なる立場を想定して、図表などの資料を用いながら、論理的な構成や展開を考えて発表している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 異なる立場や考えを想定して情報を吟味・再構成し、図表などの資料を効果的に活用しながら、論理的な構成や展開を考えて発表している。</p> <p>【Cへの支援】 指導者が質問をするなどして、提案したい内容を話させる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】 相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 相手や目的に応じて、話の形態や展開に違いがあることを理解し、提案内容にふさわしい展開を考えて話している。</p> <p>【Cへの支援】 教科書P36の「プレゼンテーションの台本例」を参考にして、話の展開にならって進めるように指示する。</p>
5月	言葉の小窓1 方言と共通語 言葉（解説） 1 方言と共通語	2	<p>●方言と共通語の特徴について知る。</p>	<p>1 『言葉の小窓 1 方言と共通語』を読んで方言で書かれた文を読み比べ、気づいたことを話し合い、方言と共通語について理解を深める。</p> <p>2 第1時を踏まえ、新しい方言や社会方言について知る。方言と共通語の使い分けについて考え、自分たちの言語生活を振り返る。</p>	<p>伝国(1)イ(ア)</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・共通語と方言の特徴を踏まえ、進んで課題に取り組もうとしている。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・共通語と方言の果たす役割について理解している。</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】 共通語と方言の特徴を踏まえ、「考えよう」に取り組もうとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 「考えよう」に取り組むことをとおして、身のまわりの方言や、共通語との使い分けについて考え、自らの言語生活を見直している。</p> <p>【Cへの支援】 社会方言など、自分たちの身近なところにも方言があるということに気づかせる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】 共通語と方言の果たす役割についてまとめ、理解している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 共通語と方言の果たす役割についてまとめ、理解したうえで、自らの言語生活を見直している。</p> <p>【Cへの支援】 ワークシートに記入させ、方言を聞いたときのイメージや、共通語を用いない場面を考えさせる。</p>

6月	二 関 係 を 掘 り 起 こ す	日本の花火の 楽しみ	5 (内, 書1)	<p>●筆者のものの見方や考え方を捉え、「日本の花火の魅力」についてまとめる。</p> <p>●全体と部分との関係に着目して文章を読む。</p>	<p>1 全文を通読し、筆者が読者に問いかけている一文を抜き出し、その答えを一文でまとめる。</p> <p>2 第二大段落から、日本の花火の美しい形・色を実現するための花火玉の仕組みについて示されているところを抜き出す。</p> <p>3 第三大段落から、花火師の理想とする花火の「形」や「変化」が示されているところを抜き出し、理想の花火について話し合う。</p> <p>4 第四大段落の結論部分を踏まえながら、筆者が述べている日本の花火の魅力について、その中の一つを選び、文章にまとめる。</p>	<p>C(1)ア C(1)イ 伝国(1)イ(イ) 言語活動例 C(2)イ</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・筆者のものの見方や考え方に興味をもち、「日本の花火の魅力」についてまとめようとしている。</p> <p>◇読む能力</p> <p>・文章全体と部分との関係に着目して、説明の仕方を捉えて読んでいる。</p> <p>・筆者のものの見方や考え方を捉えるとともに、「日本の花火の魅力」についてまとめている。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・抽象的な概念を表す語句に注意し、その意味を的確に理解して読んでいる。</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定規準】 筆者のものの見方や考え方に興味をもち、「日本の花火の魅力」についてまとめようとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 表現の仕方に着目して筆者のものの見方や考え方を捉え、「日本の花火の魅力」について自分の経験や話し合ったことに照らし合わせつつまとめようとしている。</p> <p>【Cへの支援】 導入の工夫として、花火を見た経験を教室の中で発表させたり、グループで考えさせたりすることによって、今までに感じていた花火の魅力を思い起こさせる。</p> <p>◇読む能力</p> <p>【Bの判定規準】 文章全体と部分との関係に気づきながら、筆者の説明の進め方を捉えて読んでいる。</p> <p>筆者のものの見方や考え方、「日本の花火の魅力」について捉え文章にまとめている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 文章全体と部分との関係や表現の仕方に着目して筆者のものの見方や考え方を捉えるとともに、「日本の花火の魅力」について自分の経験や話し合ったことに照らし合わせつつまとめている。</p> <p>【Cへの支援】 文章の構成や表現の仕方が読者にどのような印象を与えているかをグループで検討させたり、第二・第三大段落の、日本の花火の構造や理想の花火を追い求める花火師の工夫の中から、最も印象に残ったものについて話し合わせたりする。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定規準】 抽象的な概念を表す語句に注意し、その意味を理解して読んでいる。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 抽象的な概念を表す語句に注意し、その意味を的確に理解して読むとともに、類義語や同音異義語も理解し語彙を豊かにしている。</p> <p>【Cへの支援】 抽象的な語句の意味をグループで考えさせる。</p>
		【書く】	5	●自分の意見（立	1 新聞の投書記事を書いた	B(1)ア	◇書く能力	◇国語への関心・意欲・態度
						<p>・「日本の〇〇の魅力」について、多様な方法で材料を集めながら、自分の考えをまとめている。</p>	<p>◇書く能力</p> <p>【Bの判定基準】 「日本の〇〇の魅力」について、自分の経験や話し合ったことを思い起こしながら、自分の考えをまとめている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 「日本の〇〇の魅力」について、自分の経験や話し合ったこと、新たに調べたことを踏まえながら、自分の考えをまとめている。</p> <p>【Cへの支援】 「日本の〇〇の魅力」から思い起こされる事柄をグループで話し合わせる。</p>	

新聞の投書記事を書く		場)にそって投書記事を書く。 ●「構成の型」を用いて、文章を書く。	めの活動の流れと、「構成の型」を確認する。 2 「表現テーマ例集」を参考にして、投書記事のテーマを決める。 3 「構成の型」を用いて投書記事を書く。 4 自分の意見を振り返り、表現や構成に注意して、推敲する。 5 書いた文章を友達と読み合い、意見を交換する。	B(1)イ 伝国(1)イ(オ) 言語活動例 B(2)イ	・多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書こうとしている。 ◇書く能力 ・社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら、立場を明確にして、文章の構成を理解して自分の意見を書いている。 ◇言語についての知識・理解・技能 ・相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開の違いがあることを理解している。	【Bの判定基準】 多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書こうとしている。 【Aの具体的な姿の例】 読み手を意識し、意見を支える根拠の多様さなどについて、自分の考えを効果的に伝えようとして文章を書こうとしている。 【Cへの支援】 教科書P49の「投書記事の例」に対する自分の意見をもたせる。 ◇書く能力 【Bの判定基準】 社会生活の中から課題を決め、自分の立場を明確にし、文章の構成を理解して自分の意見を書いている。 【Aの具体的な姿の例】 社会生活の中から多面的な課題を選び、自分の意見を明確にし、「構成の型」を生かして、説得力のある文章を書いている。 【Cへの支援】 指導者が新聞の投書欄を例として提示し、その中から題材を選ばせ、「構成の型」にそって、述べたいことを箇条書きにさせる。 ◇言語についての知識・理解・技能 【Bの判定基準】 新聞の投書という形式を理解して、文章の形態や展開の違いを考えている。 【Aの具体的な姿の例】 新聞の投書にふさわしい展開を考え、読み手を想定した言葉づかいがなされている。 【Cへの支援】 実際の投書記事を参考にして、読みやすい投書を選ばせ、その文体を模倣するように指示する。
漢字の広場1 まちがえやすい漢字	1	●似た形やまちがえやすい漢字についての理解を深める。	1 似た形やまちがえやすい漢字についての理解を深め、正しい字形で漢字を書くようにする。	伝国(1)ウ(ア) 伝国(1)ウ(イ)	◇国語への関心・意欲・態度 ・字形の似た漢字やまちがえやすい漢字について興味をもち、その違いを積極的に見つけようとしている。 ◇言語についての知識・理解・技能 ・字形と音、字形と意味の関係を理解し、正しい字形で漢字を書いている。	◇国語への関心・意欲・態度 【Bの判定基準】 身のまわりの漢字から字形の類似した漢字を探し、まちがえやすい部分を積極的に見つけようとしている。 【Aの具体的な姿の例】 漢和辞典を利用して、字形の類似した漢字を調べ、特にまちがえやすい同音の二字などを比較して、その違いを見つけようとしている。 【Cへの支援】 小学校学習漢字の中の字形の類似した漢字を提示し、共通した部分を確認したうえで、まちがえやすいポイントに気づかせる。 ◇言語についての知識・理解・技能 【Bの判定基準】 字形と音、字形と意味との関係に注意しながら、正しい字形で文脈にそった適切な漢字を書いている。 【Aの具体的な姿の例】 字形の類似した漢字や、その漢字を含む熟語を用いて文を作っている。 【Cへの支援】 小学校学習漢字の中の字形の類似した漢字を提示し、字形と音、字形と意味の関係を理解させる。
言葉の小窓2	2	●話し言葉と書き	1 『言葉の小窓 2 話し	伝国(1)イ(ア)	◇国語への関心・意欲・態度	◇国語への関心・意欲・態度

	<p>話し言葉と書き言葉</p> <p>言葉（解説）</p> <p>2</p> <p>話し言葉と書き言葉</p>		<p>言葉の、それぞれの特徴を捉える。</p>	<p>言葉と書き言葉』を読んで、課題意識をもち、話し言葉と書き言葉の違いについて考えるため、「考えよう」の変換作業に取り組む。</p> <p>2 「考えよう」の結果をもとにして、話し言葉と書き言葉のそれぞれの特徴やその理由、特徴の生かし方などについて考える。</p>		<p>・話し言葉と書き言葉の特徴について、日常生活に即して考えようとしている。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・話し言葉と書き言葉の、それぞれの特徴をあげている。</p>	<p>【Bの判定基準】話し言葉から書き言葉へ、またその逆への変換に取り組んでいる。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】変換作業をとおして、日常生活における話し言葉と書き言葉の特徴を踏まえた使い分けを考えようとしている。</p> <p>【Cへの支援】変換後の文章や話を生徒相互で評価させ、それぞれの特徴について話し合わせる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】話し言葉と書き言葉のそれぞれの特徴について、具体例を示しながらあげることができる。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】話し言葉と書き言葉の特徴が、どのような理由によって生じるかを説明することができる。</p> <p>【Cへの支援】話し言葉と書き言葉のいずれかに特に使われる言葉や表現を指摘させることによって、両者の違いに気づかせる。</p>
<p>三</p> <p>自己をひらく</p>	<p>夢を遊ぶ</p>	<p>4</p> <p>(内、書2)</p>	<p>●さまざまな方法で集めた情報の中から適切なものを選び、自分の考えをまとめる。</p>	<p>1 『夢を遊ぶ』を読み、感想や関心をもった点などについて意見を交流する。</p> <p>2 「みちしるべ」を読み、自分の考えをまとめるための方法と手順を確認したうえで課題を決める。</p>	<p>C(1)オ</p> <p>伝国(1)イ(オ)</p> <p>言語活動例</p> <p>C(2)ウ</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・本や文章などから適切な情報を得て、課題を調べようとしている。</p> <p>◇読む能力</p> <p>・それぞれの特徴を生かした情報収集の手段を理解している。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・相手や目的に応じて、情報を整理している。</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】図書館やインターネットなどを活用して、課題を調べようとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】図書館やインターネットなどを活用して得た情報を比較して、自分の考えに生かそうとしている。</p> <p>【Cへの支援】興味をもった話題について考えさせ、疑問点を出させる。</p> <p>◇読む能力</p> <p>【Bの判定基準】図書館やインターネットなどで得た情報の特徴を理解している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】さまざまな方法で収集した情報の特徴を理解し、自分の考えをまとめている。</p> <p>【Cへの支援】情報収集の手段それぞれの特徴を箇条書きであげさせる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】相手や目的に応じた情報収集や情報整理をしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】集めた情報の真偽や適否を考えながら情報整理をしている。</p> <p>【Cへの支援】相手や目的によって情報収集の手段や方法が異なることに気づかせる。</p>
				<p>3 課題についての理解を深めるために、マッピングなどで自分の課題を決め、図書館やインターネットを活用して資料を集める。</p>	<p>B(1)ア</p>	<p>◇書く能力</p> <p>・多様な方法で材料を集めながら、自分の考えをまとめている。</p>	<p>◇書く能力</p> <p>【Bの判定基準】集めた資料や情報を整理して、レポートにまとめている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】自分の考えが相手に効果的に伝わるように説明や具体例を加えて、レポートにまとめている。</p> <p>【Cへの支援】教科書P332「レポートの書き方」を参考にしながら、レポー</p>

				4 さまざまな方法で集めた資料や情報を整理して、自分の考えをレポートにまとめる。			トの書き方を確認させる。
7月	物語を読み解く	3	●言語表現を映像表現に変換することで、それぞれのメディアの特性を知り、解釈を広げる。	<p>1 作品を読むことと「語り直す」ことを、『ごんぎつね』についての記憶と結びつけて考える。</p> <p>2 『ごんぎつね』の四つの絵コンテから、映像や作り手の捉え方について考える。</p> <p>3 「言語の『語り』、映像の『語り』」を読み、それぞれのメディアの特性について考えを深める。</p>	<p>C(1)オ 伝国(1)イ(オ) 言語活動例 C(2)ア C(2)ウ</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・言語表現と映像表現のそれぞれの特徴を比較し、作品についての自分の考えを深めようとしている。</p> <p>◇読む能力</p> <p>・読んだ文章から適切な情報を得て、言語表現と映像表現の違いについて考えている。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開の違いがあることを理解している。</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】 言語表現と映像表現の関係に関心を持ち、それぞれの表現の特性について考えようとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 言語表現と映像表現の特性の違いに関心を持ち、活字の作品が映像化された場合の表現の違いについて考えようとしたり、目的に応じた最も効果的な映像化の方法について、自分の考えをまとめようとしている。</p> <p>【Cへの支援】 学習者が知っている、映像化作品とその原作を具体的に取り上げながら、原作とはイメージが違う、もっとこういうものが見たかったといった言葉を引き出させる。さらに、『ごんぎつね』だと、どういった映像化作品になれば見たいと思うのか、といった、日常生活に置きかえた具体的な言葉の支援を行う。</p> <p>◇読む能力</p> <p>【Bの判定基準】 言語表現と映像表現のそれぞれの特徴を比較し、作品についての自分の考えを深めている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 『ごんぎつね』の言語表現を吟味し、どの言葉が、セリフが、場面が、どのように映像化することができるかを想像している。また、効果的な映像化作品にするための方法を考えている。</p> <p>【Cへの支援】 絵コンテを手がかりに、どの絵コンテが、どの言語表現に対応しているのかを考えさせる。そのうえで、原作の冒頭の効果について考えさせ、映像の冒頭にも同じ構成を取り入れるのか、取り入れないのかを考えさせる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】 話や文章の形態や展開の違いがあることを理解している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 話しや文章の形態や展開の違いを理解しながら、適切な映像化作品（絵コンテ）を選択し、完成できている。</p> <p>【Cへの支援】 言語表現は文字で物語が展開し、映像表現（絵コンテ）は、絵で物語を説明していることを理解させる。実際の映像と、その作品の絵コンテを見比べるということも有効な手段である。</p>
	文法の小窓1 活用のない自立語	2	●活用のない自立語を理解する。	<p>1 名詞、指示語の種類と用法について理解を深める。</p> <p>2 連体詞、副詞、接続詞、感動詞の種類や用法について</p>	<p>伝国(1)イ(エ)</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・活用のない自立語の性質やはたらきについて理解しようとしている。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】 活用のない自立語について、「確かめよう」に取り組みながら理解しようとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 教科書の用例を参考にしながら、日常生活や社会生</p>

		文法（解説） 1 活用のない自立語		て理解を深める。		・活用のない自立語の性質やはたらきについて理解している。	活で用いられる言葉について見直そうとしている。 【Cへの支援】「ハルとアキの会話」「確かめよう」に、再度、取り組ませ、文法を学習することの意味について考えるよう促す。 ◇言語についての知識・理解・技能 【Bの判定基準】活用のない自立語の種類と語例をあげている。 【Aの具体的な姿の例】活用のない自立語の性質と語例をあげることができ、他の品詞と識別している。 【Cへの支援】文の成分と五つの品詞の区別を結びつけて考えさせる。
		漢字の広場2 漢字の成り立ち	1	●漢字の成り立ちについての理解を深める。	1 漢字の六種類の成り立ちを理解し、身のまわりの漢字を分類する。	伝国(1)ウ(ア) 伝国(1)ウ(イ) ◇国語への関心・意欲・態度 ・漢字の成り立ちに興味をもち、それについての知識を深めようとしている。 ◇言語についての知識・理解・技能 ・漢字の成り立ちの六つの原理について理解している。	◇国語への関心・意欲・態度 【Bの判定基準】漢字の成り立ちから、身のまわりの漢字を分類しようとしている。 【Aの具体的な姿の例】漢和辞典を利用して、多くの漢字の成り立ちについて調べようとしている。 【Cへの支援】象形文字、指事文字を足がかりにして、小学校学習漢字の成り立ちについて理解させる。 ◇言語についての知識・理解・技能 【Bの判定基準】小学校学習漢字と第一学年で習った漢字を、成り立ちの六種類に分類している。 【Aの具体的な姿の例】中学校で習った漢字（形声文字）の読みをその音符から類推している。 【Cへの支援】小学校学習漢字と第一学年で習った漢字の中で、四種の漢字の構成法（象形文字・指事文字・会意文字・形声文字）が使われているものについて確認させる。
9月	四表現を見つめる	近代の短歌	3 (内、書1)	●情景や心情を掘り起こし、声に出して短歌を読む。	1 声に出して短歌を読み、情景や心情を味わう。 2 鑑賞文を交流することをおして、情景や心情を示している表現に着目し、短歌にこめられた思いや感動を読み取る。	C(1)ア C(1)イ 伝国(1)ア(ア) 言語活動例 C(2)ア ◇国語への関心・意欲・態度 ・内容や表現の仕方について感想を交流しようとしている。 ◇読む能力 ・描写の効果を考え、内容の理解に役立てている。 ◇言語についての知識・理解・技能 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、近代短歌の世界を楽しんでいる。	◇国語への関心・意欲・態度 【Bの判定基準】短歌が描く世界や心情にふれて感想を交流しようとしている。 【Aの具体的な姿の例】短歌が描く世界や心情を自分と関わらせて感想を交流しようとしている。 【Cへの支援】短歌がどのような世界や心情を表しているか読み取らせる。 ◇読む能力 【Bの判定基準】短歌の表現を根拠にしながその魅力を考えている。 【Aの具体的な姿の例】短歌の表現が読み手にどのような効果があるか説明している。 【Cへの支援】短歌の魅力を支える具体的な表現について指摘させる。 ◇言語についての知識・理解・技能 【Bの判定基準】短歌の特徴を捉えて朗読の工夫を考えている。

						<p>【Aの具体的な姿の例】 短歌から受ける印象の違いに応じて朗読をさまざまに工夫している。</p> <p>【Cへの支援】 朗読の工夫の仕方を知り、自分の朗読にあてはめさせる。</p>
			3 短歌のきまりを知り、短歌を創作する。	B(1)ウ	<p>◇書く能力</p> <p>・情景や心情が効果的に伝わるように取り入れて、創作している。</p>	<p>◇書く能力</p> <p>【Bの判定基準】 描きたい情景や心情を短歌の型（五七五七七）で創作している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 情景や心情が効果的に伝わる工夫をして短歌を創作している。</p> <p>【Cへの支援】 描きたい情景や心情が決められるように課題設定を援助する。</p>
夏の葬列	6	<p>●構成や展開の特徴を捉え、人物の心情の変化について感想を交流する。</p> <p>●人物の描写や人称代名詞に着目し、その役割や効果について理解を深める。</p>	<p>1 全文を通して読み、難しい語句について調べ、あらすじを把握する。</p> <p>2 物語の展開を捉え、感想の交流をとおして読みの課題を設定する。</p> <p>3 人物の心情の変化を捉え、それについて感想を交流する。</p> <p>4 結末部分について考えを深め、話し合いをする。</p> <p>5 物語の展開や表現の工夫がどのような効果をもたらしているか考える。</p> <p>6 主人公の人称の使い分けを比較し、その効果について話し合う。</p>	<p>C(1)イ</p> <p>C(1)ウ</p> <p>伝国(1)イ(イ)</p> <p>言語活動例</p> <p>C(2)ア</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・人物の描写や人称代名詞に着目し、その役割や効果について理解を深めようとしている。</p> <p>◇読む能力</p> <p>・構成や展開の特徴を捉え、人物の心情の変化について感想を交流している。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・指示語の役割や効果について理解している。</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】 人称代名詞に着目し、その役割や効果について自分の考えをまとめようとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 「彼」「僕」「俺」「自分」のそれぞれの人称代名詞について、主人公の感情や語りの特徴と合わせてその効果を説明しようとしている。</p> <p>【Cへの支援】 「彼」「僕」「俺」「自分」がどの場面でどのように用いられているのか、場面のイメージを丁寧に確認することによって明らかにさせる。</p> <p>◇読む能力</p> <p>【Bの判定基準】 人物の心情の変化について感想を交流している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 主人公の生きる状況について、構成や展開の工夫についてわかったことをもとに、人物の心情の変化について感想を交流している。</p> <p>【Cへの支援】 「深めよう3」を確認し、時間の順序と物語の順序について考えさせ、気づいたことを交流させる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】 指示語の文脈上の意味を捉えて、自分の文章に用いている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 「この傷」「この町」「あの芋畑」「あの記憶」など、文脈上の言葉の意味を捉えている。</p> <p>【Cへの支援】 指示語がさしているものを具体的に明らかにさせる。</p>
【書く】 写真から物語を創作する	4	<p>●表現の仕方を工夫して、物語を創作する。</p> <p>●描写や比喩などを用いて、心情を効果的に伝える。</p>	<p>1 写真A、Bの人物像を設定し、比喩や描写を用いて表現する。</p> <p>2 他の写真と組み合わせて人物との関連を考える。会話やできごとなどを加え、物語</p>	<p>B(1)ウ</p> <p>伝国(1)イ(オ)</p> <p>言語活動例</p> <p>B(2)ア</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・表現の仕方を工夫して、物語を創作しようとしている。</p> <p>◇書く能力</p> <p>・心情が効果的に伝わるように、描写や比喩などを取り入れて書いて</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】 表現の仕方を工夫して、物語を創作しようとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 人物や場面の様子が適切に伝わるように、表現の仕方をさまざまに工夫して、物語を創作しようとしている。</p> <p>【Cへの支援】 写真からわかることや想像したことを言葉にして、具体的に表現できるように支援する。</p>

				<p>の筋を決める。</p> <p>3 描写や比喩を用いながら、物語を創作する。</p> <p>4 作品を読み返し、心情を効果的に伝える工夫について振り返る。</p>		<p>いる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解している。</p>	<p>◇書く能力</p> <p>【Bの判定基準】心情が効果的に伝わるように、描写や比喩などを取り入れて書いている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】物語の展開に即して、描こうとした人物像や場面の様子に合った描写や比喩を用いたり、五感に関する言葉を織り交ぜたりしながら具体的に書いている。</p> <p>【Cへの支援】季節や時刻を設定させたり、比喩や擬声語、擬態語を用いる箇所を選んだりして、書き加えさせる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】人物設定や人物どうしの関係を踏まえて、描こうとした人物像や場面の様子に合致した言葉を用いて表現している。</p> <p>【Cへの支援】登場人物の会話の表現に年齢などの違いが出るように、相手の呼び方や会話の語尾を工夫させる。</p>	
	漢字の練習 1	—	—	—	伝国(1)ウ(ア) 伝国(1)ウ(イ)	—	—	
10月	漢字の広場 3 漢字の多義性	1	●漢字の多義性についての理解を深める。	1 漢字の多義性についての理解を深め、熟語を正しく書き表す。	伝国(1)イ(イ) 伝国(1)ウ(ア) 伝国(1)ウ(イ)	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・漢字の多義性について興味をもち、それについての理解を深めようとしている。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・漢字のもつ複数の異なる意味を理解し、熟語を正しく書き表している。</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】身近な漢字や熟語をあげ、漢字のもつ多義的な性質を理解しようとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】漢和辞典を自ら手に取り、漢字の複数の異なる意味について意欲的に調べようとしている。</p> <p>【Cへの支援】小学校学習漢字を用いた熟語を複数提示し、漢字がもつ多義性に気づかせる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】漢字のもついくつもの異なる意味を理解し、文脈に応じて適切な熟語を正しく書き表している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】意味のわからない熟語に出会ったとき、漢和辞典や国語辞典を自ら手に取り、熟語の意味を調べながら書き表している。</p> <p>【Cへの支援】「信（信任・着信）」のように、多義性をもつ漢字を一つ選び、これを用いた熟語を複数提示し、その意味の違いに気づかせる。</p>	
	五 伝 統 を	敦盛の最期	3	●登場人物の言動や心情について話し合い、作品の理解を深める。	1 『平家物語』冒頭を歴史的仮名遣いに注意して音読し、『平家物語』の中心思想を理解する。	伝国(1)ア(ア) 伝国(1)ア(イ) C(1)イ 言語活動例	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・文章の特徴や内容をおさえて朗読しようとしている。</p> <p>◇読む能力</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】文章の文体の特徴や場面の展開や登場人物の心情などの内容をおさえて朗読しようとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】文章の文体の特徴や場面の展開や登場人物の心情な</p>

見 い だ す			●文章の特徴を生かして朗読し、物語に親しむ。	2 「敦盛の最期」を歴史的仮名遣いに注意して音読し、登場人物を確認してせりふの主語を確定する。3 記述を根拠にして登場人物の心情を読み取ったあと、一人で、あるいは役割を決めて朗読し、作品世界を味わう。	C(2)ア	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の言動からわかることをノートにまとめ、それを根拠に話し合っている。 七五調のリズムや音便、擬態語・擬音語を意識して朗読している。 ◇言語についての知識・理解・技能 <ul style="list-style-type: none"> 歴史的仮名遣いのきまりを理解して、朗読している。 	<p>どの内容をおさえて、役割を意識しながら朗読しようとしている。</p> <p>【Cへの支援】 会話の部分が誰の言葉なのかを、印をつけて整理させる。</p> <p>◇読む能力</p> <p>【Bの判定基準】 登場人物の言動とそれからわかることを対応させてノートにまとめ、それを根拠に話し合っている。</p> <p>七五調のリズムで、擬態語・擬音語の表し方を工夫して朗読している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 源氏と平家の歴史を踏まえて、登場人物の言動からわかることをノートにまとめ、それを根拠に話し合っている。</p> <p>七五調のリズムや音便、擬態語・擬音語を意識するとともに、登場人物の状況や立場、心情を意識して朗読している。</p> <p>【Cへの支援】 あらすじや傍訳、挿絵などを参考に登場人物の心情を読み取らせる。</p> <p>傍訳の「青文字」部分を参考にしながら、繰り返し音読させる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】 歴史的仮名遣いや「係り結び」など、古文に特徴的な表現を理解して朗読している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 歴史的仮名遣いや「係り結び」など、古文に特徴的な表現を理解して朗読している。</p> <p>【Cへの支援】 教科書P115の「係り結び」や教科書P125の「古典の仮名遣いと読み方の原則」を解説し、古文の中の該当する部分に線を引かせるなどして繰り返し音読させる。</p>
	随筆の味わい	3	<ul style="list-style-type: none"> ●古人のものの見方や考え方に対して、自分の考えをもつ。 ●言葉の意味を正確に捉えながら読み、筆者の思いを想像する。 	<p>1 仮名遣いに注意しながら音読し、どのような季節感や人間観が述べられているか課題をもつ。</p> <p>2 『枕草子』を読んで季節の情景を捉え、感想を交流する。</p> <p>3 『徒然草』を読んで筆者の考え方を捉え、それに対する自分の考えを文章にまとめる。</p>	伝国(1)ア(イ) C(1)エ 言語活動例 C(2)イ	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ●古人のものの見方や考え方に関心を持ち、自分の考えを書こうとしている。 <p>◇読む能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ●古人のものの見方や考え方に対して、自分の考えをもっている。 ●言葉の意味を正確に捉えながら読み、筆者の思いを想像している。 <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ●古語の意味を正確に捉えている。 	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定規準】 筆者のものの見方や考え方に関心を持ち、自分の考えを書こうとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 筆者の人生観や自然観に関心を持ち、現代にも通じること、そうではないことなどの観点からも自分の考えを書こうとしている。</p> <p>【Cへの支援】 筆者が取り上げているできごとや話題に類することで、自分の経験などとの関連があるか思い出させる。</p> <p>◇読む能力</p> <p>【Bの判定規準】 話の筋をおさえて筆者のものの見方や考え方を捉え、筆者の思いに対する自分の考えまとめている。</p> <p>言葉の意味を正確に捉えながら読み、筆者の思いを想像している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 自分のこれまでの体験や知識をあげ、比較しながら、筆者の思いに対する自分の考えを述べている。</p> <p>自分の考えの根拠となった文章表現をあげながら、筆者のものの見方や考え方を捉えている。</p>

						<p>【Cへの支援】現代語訳や注釈を参考にさせながら、筆者の考えを読み取らせる。</p> <p>机間指導により、「どんなところがおもしろかった？ 『へえ。』と思った？」などと学習者に問いかけながら、考えをまとめさせる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定規準】古語の意味を、文脈を踏まえて捉えている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】一つ一つの古語の意味を、文脈を踏まえて正確に捉えている。</p> <p>【Cへの支援】一語一語、現代語訳と対照させながら言葉の意味を捉えさせる。</p>
二千五百年前からのメッセージ	3	<p>●表現を確かめながら、内容について自分の考えをまとめる。</p> <p>●文章の特徴を生かしながら音読したり暗唱したりして、漢文の表現に慣れる。</p>	<p>1 書き下し文を音読したり暗唱したり、現代語訳を確認したりすることで、各章句の意味を捉える。</p> <p>2 教科書の章句の中から一つを選ばせて、そのよさについて話し合う。</p> <p>3 『論語』の言葉で心に響いた表現や内容について自分の考えをまとめ、好きな孔子の言葉を暗唱させる。</p>	伝国(1)ア(ア) C(1)エ 言語活動例 (*)	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・文章の特徴や孔子の考えに関心をもち、暗唱しようとしている。</p> <p>◇読む能力</p> <p>・孔子のものの見方や考え方の中で心に響いた表現や内容について、自分の考えをまとめている。</p> <p>・作品の特徴を生かして音読や暗唱をしている。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・二千五百年前もの昔の言葉が現在もことわざや成句として生き続けている生活を振り返って確かめている。</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】『論語』独特の表現や言いまわしの特徴や孔子の考えに関心をもち、音読や暗唱をしようとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】『論語』独特の表現や言いまわしの特徴や孔子の考えと自分たちの生活との関わりに関心をもち、音読や暗唱をしようとしている。</p> <p>【Cへの支援】繰り返し音読させ、独特のリズムで感じたことをあげさせる。</p> <p>◇読む能力</p> <p>【Bの判定基準】孔子のものの見方や考え方の中で心に響いた表現や内容について、知識や経験と関連づけて捉え、自分の考えをまとめている。</p> <p>漢文独特の表現や言いまわしを捉えて音読したり暗唱したりして、古典の世界を楽しんでいる。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】孔子のものの見方や考え方を自分の考えと比べたり、身近な事柄にあてはめて考えたりして、自分自身の問題として捉えている。</p> <p>「亦また……ずや」や「欲す」、「勿かれ」といった簡潔で印象的な表現が孔子のものの見方や考え方を表していることを捉え、暗唱している。</p> <p>【Cへの支援】現代語訳を丁寧に読ませ、各章句の要旨を捉えさせたうえで、これまでの自分の経験の中で似たようなことはなかったかどうかを想起させる。</p> <p>書き下し文と現代語訳を一語一語対応させて読ませることで、現代語にはあまりみられない表現や言いまわしに気づかせる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】現在使われていることわざや成句の中に孔子の思想がもたっているものが多くあることを、生活を振り返って確かめている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】孔子の言葉が、これまで多くの人々に読み継がれてきた理由を考えている。</p> <p>【Cへの支援】国語便覧や国語辞典、図書資料などを用いて、孔子の言葉がもたっていることわざや成句を探させる。</p>

		【書く】 お礼の手紙を書く	4	●相手や目的に応じて、お礼の手紙を書く。 ●「推敲のポイント」にそって手紙を推敲する。	1 誰にどのようなお礼の手紙を書くのかを決め、手紙の形式などについて確認する。 2 「していただいたこと」などをメモに書き出し、手紙の形式を踏まえて下書きをする。 3 教科書P130の「推敲のポイント」にそって下書きを推敲する。 4 友達と下書きを読み合ったあとに清書する。	B(1)エ 伝国(1)イ(オ) 言語活動例 B(2)ウ	◇国語への関心・意欲・態度 ・相手や目的を意識して、お礼の手紙を書こうとしている。 ◇書く能力 ・書いた手紙を読み返し、語句の使い方、文や段落相互の関係などに注意して、読みやすくわかりやすい文章にしている。 ◇言語についての知識・理解・技能 ・相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解している。	◇国語への関心・意欲・態度 【Bの判定基準】 相手や目的を意識して、お礼の手紙を書こうとしている。 【Aの具体的な姿の例】 手紙のよさや形式・敬語の知識を理解したうえで、正しい言葉づかいで感謝の気持ちを明確にし、かつ丁寧な文字で書き表そうとしている。 【Cへの支援】 感謝の気持ちを箇条書きで書き出させたのちに、教科書P131の「手紙の文例」を参考にして手紙を書かせる。 ◇書く能力 【Bの判定基準】 書いた手紙を読み返し、語句の使い方、文や段落相互の関係などに注意して、読みやすくわかりやすい文章にしている。 【Aの具体的な姿の例】 教科書P130の「推敲のポイント」に従い、字句を練り、より表現力を向上させている。また、交流により自己の推敲の観点を把握し、書き直している。 【Cへの支援】 敬語の使い方や、字句の使い方、読み手を意識した文章表現について支援する。 ◇言語についての知識・理解・技能 【Bの判定基準】 相手や目的に応じて、手紙の形態や展開に違いがあることを理解している。 【Aの具体的な姿の例】 手紙の形態や展開を理解したうえで、書写に関する事項を身につけ、丁寧な文字で書いている。 【Cへの支援】 手紙の形式についての基本的な事項を理解させ、記述ができるように支援する。
11月		言葉の小窓3 敬語 言葉（解説） 3 敬語	2	●敬語のはたらきや特徴について知る。	1 敬語のはたらきと用法について理解する。 2 敬語を使って手紙を書き、グループ内で紹介する。	伝国(1)イ(ア)	◇国語への関心・意欲・態度 ・敬語の種類とはたらきについて理解しようとしている。 ◇言語についての知識・理解・技能 ・敬語の種類とはたらきについて理解している。	◇国語への関心・意欲・態度 【Bの判定基準】 日常の言葉づかいを振り返りながら、敬語の種類とはたらきについて理解しようとしている。 【Aの具体的な姿の例】 教科書の「深めよう」の課題に取り組み、場面や相手に応じて敬語を正しく使おうとしている。 【Cへの支援】 「深めよう」を取り組ませ、まちがえたところは「語例」を参照しながら、直すよう促す。 ◇言語についての知識・理解・技能 【Bの判定基準】 語例や使用例の中から場面に応じた敬語を選び、話している。 【Aの具体的な姿の例】 相手や立場に応じて、正しく敬語を使っている。 【Cへの支援】 敬語を使う意義、敬語のはたらきについて理解させ、場面に応じて使い分けることを説明する。
		坊っちゃん	3	●わが国を代表す	1 『坊っちゃん』を読み、	C(1)オ	◇国語への関心・意欲・態度	◇国語への関心・意欲・態度

			る作家とその作品についてふれ、近代の小説や物語を読む。	<p>作品の続きを予想する。</p> <p>2 さまざまな資料を参考にして、近代の小説や物語を探して読む。</p> <p>3 自分の読んだ小説や物語の内容紹介をとおして、近代文学への関心を深める。</p>	伝国(1)ア(イ) 言語活動例 C(2)ウ	<p>・近代を代表する作家とその作品に興味をもち、近代文学を読もうとしている。</p> <p>◇読む能力</p> <p>・作品に登場する人物や、作品のあらすじを捉えている。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・近代文学に使われている語句や表現の効果について考えている。</p>	<p>【Bの判定基準】 近代文学の作品に興味をもち、他の作品を読もうとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 近代文学の作品とその作家に興味をもち、他の作品や作家、時代背景などについて調べ、読もうとしている。</p> <p>【Cへの支援】 教科書P147～149のビジュアル資料などを参考にしながら、近代文学や作家に興味をもたせる。</p> <p>◇読む能力</p> <p>【Bの判定基準】 「俺」とそれに関わる登場人物を確認しながら、作品のあらすじを捉えている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 「俺」の友人や兄たちは、「俺」に対してどのような印象をもっているかを考えながら、作品を読んでいる。</p> <p>【Cへの支援】 この作品は、主人公が「俺」であることを確認させようとして、他の登場人物をあげさせる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】 作品中の語句の意味や表現について理解している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 近代文学に使われている語句や表現について、現代の表現と比べながらその効果について考えている。</p> <p>【Cへの支援】 作品の中でどのような語句や表現が使われているか気づかせる。</p>
六他者と生きる	水の山 富士山	3	<p>●富士山の恵みについて、筆者の考えを捉え、自分の考えをまとめる。</p> <p>●取り上げている事例の提示の仕方と、問いと答えの関係を確かめながら読む。</p>	<p>1 全文を通して読んで概要を捉え、小見出しを考えながら段落分けをする。</p> <p>2 事例の提示や、問いと答えの関係を確かめながら読む。</p> <p>3 富士山の恵みについての筆者の考えを捉え、それについての自分の考えをまとめる。</p>	C(1)ア C(1)イ C(1)ウ 伝国(1)イ(ウ) 言語活動例 C(2)イ	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・筆者の考えや説明的文章の表現について関心をもち、自分の考えを述べようとしている。</p> <p>◇読む能力</p> <p>・筆者の考えや文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめている。</p> <p>・事例の提示の仕方を的確に把握し、筆者の論の組み立てをおさえて、筆者が解明した「富士山の原理」を捉えている。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・文の中の文の成分の順序や照応、文の構成などについて考えている。</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定規準】 富士山の恵みについての筆者の考えや、文章の構成や展開、表現の仕方について関心をもち、自分の考えを述べようとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 富士山の恵みについての筆者の考えや、文章の構成や展開、表現の仕方について関心をもち、他の資料や本などと関連させて自分の考えを述べようとしている。</p> <p>【Cへの支援】 富士山には川がないこと、降った雨がどこに行くのかなど、教材に示された不思議なことや疑問について、自分なりの答えを予想させることで、学習に主体的に臨めるようにする。</p> <p>◇読む能力</p> <p>【Bの判定規準】 富士山の恵みについて筆者がどのような考えをどのように述べているか、文章の構成や展開、表現の仕方に着目して捉え、それらを根拠として自分の考えをまとめている。</p> <p>場所や数字などを把握し、筆者の論の組み立てをおさえて、筆者が解明した「富士山の原理」を捉えている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 富士山の恵みについて筆者がどのような考えをどのように述べているか、文章の構成や展開、表現の仕方に着目して捉え、それら</p>

						<p>を根拠としての確に評価し、自分の考えをまとめている。</p> <p>二つの課題に関する解明過程や、各地の湧水の水質の共通性についての説明などから、筆者が解明した「富士山の原理」を的確に把握しながら読んでいる。</p> <p>【Cへの支援】 文章の構成や展開については、水の流れに関するキーワードに着目して、文章のまとまりごとに問いとそれに対する答えをまとめられるようにする。</p> <p>筆者の考えを捉えるためには、「豊かな自然環境を育み」(P156L3)など、水の恩恵を表す言葉に着目してまとめられるようにする。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定規準】 図表を示す指示語の使い方や、文頭と文末の照応のさせ方に着目して、意味の異なりや表現の効果について考えている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 図表を示す指示語の使い方や、文頭と文末の照応のさせ方に着目して、複数の文を適切に比較して、意味の異なりや表現の効果について考えている。</p> <p>【Cへの支援】 図表を示す語や、答えを述べる文の文末など、特徴的なものに着目することで考えられるようにする。</p>
ガイアの知性	5(内、話聞1)	<p>●自然や知性に対する筆者の考え方について、自分の考えをまとめる。</p> <p>●文章の構成や展開、表現の仕方を確かめながら、筆者の考えの根拠を明確にして読む。</p>	<p>1 全文を通読し、問題と主張の関係を把握したうえで、「鯨と象」と「人間」の二つの「知性」の対比構造を捉える。</p> <p>2 第一大段落の二つの問題提起を捉え、第二大段落以降の解決に関わる重要語句を見いだす。また、第二大段落では、「鯨や象」の「高度な『知性』」の実体を捉える。</p> <p>3 第三大段落では、全体を集約する「攻撃的な知性」と「受容的な知性」の関係を捉え、それをもとにしている筆者の提言・主張の妥当性について判断する。</p> <p>4 筆者の主張に対する自分の意見を文章にまとめる。</p>	<p>C(1)ア C(1)イ C(1)ウ C(1)エ 伝国(1)イ(ウ)</p> <p>言語活動例</p> <p>C(2)イ</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・自然や知性に対する筆者の考え方について関心をもち、自分の考えをもととしている。</p> <p>◇読む能力</p> <p>・筆者の提言・主張に対して自分なりの考えを形成し、文章などに表現している。</p> <p>・文章全体と部分との関係に着目して読み、筆者のものの見方や考え方を、および主張について捉えている。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・抽象的な概念を表す語句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句に注意し、その意味と類義や対義の対応関係を的確に理解して読んでいる。</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定規準】 自然や知性に対する筆者の考え方について関心をもち、自分の考えをもととしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 表現の仕方に着目して筆者のものの見方や考え方、および主張を捉え、人間以外の「鯨や象」の「知性」に学ぶことについて自分の経験や話し合ったことに照らし合わせつつ考えようとしている。</p> <p>【Cへの支援】 導入の工夫として、鯨、象、イルカについて知性を感じた経験を教室の中で発表させたり、グループで考えさせたりすることによって、人間以外の知性の存在や内実に興味や関心をもたせる。</p> <p>◇読む能力</p> <p>【Bの判定規準】 筆者の提言・主張に対して、文章の構成や展開、表現の工夫、言葉や文の相互の関係、役割、筆者の意図などの視点から考え、本文の叙述などを具体的な根拠として自分なりの考えを形成し、文章などに表現している。</p> <p>文章全体と部分との関係に気づきながら読み、筆者が推論の根拠としている三つの事実を、図式化やキーワードをつなげることなどをおして明確に把握し、そこから導かれる結果・結論を捉えて読んでいる。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 筆者の提言・主張に対して、文章の構成や展開、表現の工夫、言葉や文の相互の関係、役割、筆者の意図などの多様な視点から考え、本文の叙述などを具体的な根拠として自分なりの考えを形成したり批判的</p>

						<p>に評価したりしながら、文章などに表現している。</p> <p>文章全体と部分との関係に気づきながら読み、筆者が推論の根拠としている三つの事実を、図式化やキーワードをつなげるなどをおして明確に把握し、そこから導かれる結果・結論の有効性・妥当性について思考しながら読んでいる。</p> <p>【Cへの支援】 筆者の主張を説得的にするために、文章の構成や表現の仕方がどのような効果を与えているかをグループで検討させたり、第二大段落の「全く別種の『知性』」の事例の中から強く印象に残ったことを話し合わせたりする。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定規準】 抽象的な概念を表す語句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句に注意し、その意味と類義や対義の対応関係に気づきながら読んでいる。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 抽象的な概念を表す語句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句に注意し、その意味と類義や対義の対応関係と論旨とが関係づけられていることを的確に捉えている。また、このような語句への反応力を高めて語彙を豊かにしている。</p> <p>【Cへの支援】 抽象的な語句の意味をグループで考えさせる。</p>	
			5 二つの文章の特徴や、筆者の考えに対する自分の考えなどについて、論理的な構成を考えて話し、友達と自分の考えとを比較しながら聞く。	A(1)イ A(1)エ	◇話す・聞く能力 ・異なる立場や考えを踏まえて自分の考えをまとめて話すとともに、話の論理的な構成に注意して聞き、自分の考えと比較している。	◇話す・聞く能力 【Bの判定規準】 筆者のものの見方や考え、主張に対する賛否にさまざまな異なる立場や考えが出されていることを踏まえて自分の考えをまとめて話すとともに、考えの根拠のおさえ方など話の論理的な構成に注意して聞きながら、自分の考えと比較している。 【Aの具体的な姿の例】 筆者のものの見方や考え、主張に対する賛否にさまざまな異なる立場や考えが出されていることを踏まえて自分の考えを見直したうえで話すとともに、考えの根拠のおさえ方など話の論理的な構成に注意して聞きながら、自分の考えと比較して、さらに考えを深めている。 【Cへの支援】 グループの話し合いの中で出された意見や自分の経験をもとにして、友達の話の内容との共通点や相違点について、自分の気づきをまとめさせる。	
	漢字の練習2	—	—	—	伝国(1)ウ(ア) 伝国(1)ウ(イ)	—	
12月	【話す聞く】 話を聞いて自分の考えと比	4	●友達のスピーチを聞いて、自分の考えと比べる。	1 自分の考えを広げるための聞き方について確認する。 2 話す側、聞く側の役割を	A(1)エ 伝国(1)イ(オ) 言語活動例	◇国語への関心・意欲・態度 ・話し手が話しやすい聞き方について考えたり、話を聞いて意見を述べ	◇国語への関心・意欲・態度 【Bの判定基準】 話し手が話しやすい聞き方について考えたり、話を聞いて意見を述べたり質問をしたりしようとしている。

<p>べる</p>		<p>●論理や構成の仕方を評価しながら聞く。</p>	<p>確認し、聞き手はスピーチを聞き、自分の考えと比較しながら評価する。</p> <p>3 前時の学習を振り返り、友達のスピーチを聞く。</p> <p>4 自分の考えがどのように広がったのかをまとめる。よりよい聞き方について友達と話し合う。</p>	<p>A(2)ア</p>	<p>たり質問をしたりしようとしている。</p> <p>◇話す・聞く能力</p> <p>・話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較している。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解している。</p>	<p>【Aの具体的な姿の例】話しやすい聞き方を意識して話を聞いたり、自分の考えと比較しながら聞いたりして、意見を述べたり質問したりしようとしている。</p> <p>【Cへの支援】話し手が聞きやすい聞き方を具体的に示す。</p> <p>◇話す・聞く能力</p> <p>【Bの判定基準】話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】「意見→根拠」「事実→意見」などをおさえながら話を聞き、自分の考えとの共通点や相違点から、考えの広がりを明確にしている。</p> <p>【Cへの支援】評価の観点を具体的に示し、活動の中で自分の考えになかった点をあげさせる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】スピーチにふさわしい論理の展開や構成の仕方を考え、聞き手を想定した言葉づかいがなされている。</p> <p>【Cへの支援】実際のスピーチを参考にして、聞き取りやすい展開を示し、それを取り入れさせる。</p>
<p>【書く】 意見文を読み合う</p>	<p>4</p>	<p>●筆者の主張に対する意見文を書く。</p> <p>●互いに読み合い、文章の表現を高める。</p>	<p>1 『ガイアの知性』を読み、筆者の自然観(主張)を捉え、自分の考えをもつ。</p> <p>2 「序論—本論—結論」の構成で、根拠をあげて、意見文を書く。</p> <p>3 書いた文章を推敲する。</p> <p>4 「交流カード」や付箋などを用いて、友達と文章を読み合ったあとに、清書する。</p>	<p>B(1)オ 伝国(1)イ(オ) 言語活動例 B(2)イ</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書こうとしている。</p> <p>◇書く能力</p> <p>・書いた文章を互いに読み合い、文章の構成などについて、意見を述べたり助言したりしている。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解している。</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書こうとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】多様な考えができる事柄について、視野を広げて多面的に捉え、自分の意見を整理し明確に書こうとしている。</p> <p>【Cへの支援】事実と、感想や意見などを区別させ、理由を示させる。</p> <p>◇書く能力</p> <p>【Bの判定基準】書いた文章を互いに読み合い、文章の構成などについて、意見を述べたり助言したりしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】交流の目的を意識し、文章の構成などについて、意見文の見直しに生かし合えるような意見を述べたり、助言をしたりしている。</p> <p>【Cへの支援】自分の意見との共通点や相違点に着目させながら、相手の文章を読み、自分が疑問に思ったことから述べさせる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】意見文という文章の形態を理解し、説得力のある根拠をあげ、効果的な構成を用いて意見との整合性をもたせている。</p>

							<p>【Cへの支援】読む相手を意識し、意見に見合った理由づけとなるよう、根拠をあげさせ、具体的に書かせる。</p>	
		<p>文法の小窓2 活用のある自立語</p> <p>文法（解説） 2 活用のある自立語</p>	3	<p>●用言の活用と種類・用法を理解する。</p>	<p>1 活用のある自立語について理解を深める。</p> <p>2 「解説」を参考に、動詞の種類や役割について理解を深める。</p> <p>3 「解説」を参考に、形容詞や形容動詞の活用や役割について理解を深める。</p>	伝国(1)イ(エ)	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・用言の活用を中心に、それぞれの品詞の性質とはたらきについて理解しようとしている。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・用言の活用を中心に、それぞれの品詞の性質とはたらきについて理解している。</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】用言の活用について、「確かめよう」に取り組みながら、理解しようとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】教科書の用例を参考にしながら、日常生活や社会生活で用いられる言葉について見直そうとしている。</p> <p>【Cへの支援】「ハルとアキの会話」「確かめよう」に、再度、取り組ませ、文法を学習することの意味について考えるように促す。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】活用とは、あとに続く言葉や使われ方によって形が変化することであることを理解している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】活用とは何かを理解し、活用表にまとめるとともに、例を示しながら自分の言葉で活用について説明している。</p> <p>【Cへの支援】活用という現象を、実例を示しながら理解させる。</p>
1月	七自己と対話する	<p>学ぶ力</p> <p>(内、書1)</p>	5	<p>●筆者のものの見方や考え方を捉え、知識や体験と関連づけて自分の考えをまとめる。</p> <p>●文章全体と部分との関係や、例示などの効果を捉える。</p>	<p>1 全文を通して読み、文章の構成や展開に注意して概要を捉える。</p> <p>2 全文を、提案・解説・例示の観点から整理し、「学ぶ力が伸びる」条件をまとめる。</p> <p>3 筆者の主張を読むこととおして、自分の体験を思い起こしたり考えを深めたりする。</p> <p>4 文章の構成や例示などの、表現の工夫や効果について考える。</p>	<p>C(1)ア</p> <p>C(1)イ</p> <p>C(1)エ</p> <p>伝国(1)イ(オ)</p> <p>言語活動例</p> <p>C(2)イ</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・筆者のものの見方や考え方に興味をもち、知識や体験と関連づけて自分の考えをまとめようとしている。</p> <p>◇読む能力</p> <p>・筆者のものの見方や考え方を捉え、知識や体験と関連づけて自分の考えをまとめている。</p> <p>・文章の全体と部分との関係や、例示などの効果を捉えている。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解している。</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】「学力」についての筆者のものの見方や考え方に興味をもち、自分の考えをまとめようとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】「学力」についての筆者のものの見方や考え方について興味をもち、筆者のあげている例を自分の知識や体験と関連づけて考えをまとめようとしている。</p> <p>【Cへの支援】「学力」という言葉について、自分の経験から思い浮かぶ事柄や、本文から読み取った筆者の考えを並べてノートに書き出し、両者の違いについて感じたことをまとめる。それをもとに小グループで意見交換を行わせる。</p> <p>◇読む能力</p> <p>【Bの判定基準】筆者特有の「学力」についての問題提起や考え、その表現の仕方を捉え、自分の知識や体験と関連づけて考えたことをまとめている。</p> <p>筆者が考える「学力」の定義・条件、「学力のある人」の説明という文章の構成や、「学力」を説明するために用いている「消化力」「睡眠力」「自然治癒力」の例の効果について読み取り、説明している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】筆者特有の「学力」についての問題提起や考え、それを読者の理解が少しずつ深まるように対話するような書き方や、自分の立場を明確にして述べる効果的な説明の仕方を捉え、自分の知識や体験と関連づけて考えたことをまとめている。</p> <p>筆者が考える「学力」の定義・条件、「学力のある人」の説明という文章の</p>

						<p>構成や、「学力」を説明するために用いている「消化力」「睡眠力」「自然治癒力」の例の効果について読み取り、自分の体験と関連づけた考えを加えて説明している。</p> <p>【Cへの支援】 筆者の文章からわかりやすい箇所を見つけさせ、どのような表現の工夫が用いられているかについて考えさせる。もしくは、「……みましょう」「……でしょうか」など読者に語りかけている箇所から、表現の仕方のもつ効果から検討させてもよい。</p> <p>穴埋め形式のワークシートなどを用意して、「消化力」「睡眠力」「自然治癒力」の例について、本文を読みながらまとめさせることをとおして、筆者特有の定義づけを理解させる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】 筆者が明確に主張し、読み手に積極的にはたらきかけるスタイルの文章の展開や用語の使い方を捉えている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 筆者が主張する学ぶ姿のあり方に対して、自分自身の経験を振り返り、共感や反論、疑問を明らかにする自分の考えを筆者の用語などの表現の工夫を利用して述べている。</p> <p>【Cへの支援】 「師を見つける」という「師」が象徴する人や書籍、その他の学びの機会などを広げて自分の経験を振り返らせる。「わかるおもしろさ」「できる喜び」などの経験を思い起こさせることを、座学ばかりでなく音楽や美術、体育など幅広く思い起こさせることが必要である。</p>
			5 筆者の考えを踏まえて、小学校からの学びを振り返り、文章にまとめる。	B(1)ウ	◇書く能力 ・事実や事柄、意見が効果的に伝わるように、説明や具体例を加えて書いている。	<p>◇書く能力</p> <p>【Bの判定基準】 筆者の「学力観」や「学力低下の原因」についての主張に対し、自分の考えを書いている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 筆者の問題提起を自分の知識や体験と関連づけて受け止め、自分の考えた意見を書いている。</p> <p>【Cへの支援】 筆者の「学力観」や「学力低下の原因」についてノートに整理させる。そして、自分は筆者の意見に賛成か反対かに続けて、その理由を記述させる。</p>
【書く】 四コマ漫画から意見文を書く	6	<p>●複数の考え方があある問題について、意見文を書く。</p> <p>●自分の主張の根拠を示して、文章を書く。</p>	<p>1 根拠が明確な文章を書くための順序や方法について理解する。</p> <p>2 四コマ漫画を読んで自分の「課題」をもつ。</p> <p>3 自分の考えを「事実」「理由づけ」「主張」の形で整理し、「主張」の根拠を明確に</p>	<p>B(1)ア</p> <p>B(1)イ</p> <p>B(1)ウ</p> <p>B(1)エ</p> <p>B(1)オ</p> <p>伝国(1)イ(オ)</p> <p>言語活動例</p> <p>B(2)イ</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・多様な考えがでできる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書こうとしている。</p> <p>◇書く能力</p> <p>・自分の立場を明確にして、「事実」「理由づけ」「主張」を整理し、根拠をあげて、文章を書いている。</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】 多様な考えがでできる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書こうとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 多様な考え方のそれぞれについて、根拠の分析を書き示したうえで、立場を決めて意見を述べる文章を書こうとしている。</p> <p>【Cへの支援】 教科書P190の『「課題」の例』に対する意見を書き出させる。</p> <p>◇書く能力</p> <p>【Bの判定基準】 自分の立場を明確にして、「事実」「理由づけ」「主張」を整</p>

				<p>する。</p> <p>4 「頭括型」「尾括型」「双括型」から構成を選び、意見文を書く。</p> <p>5 書いた文章を推敲する。</p> <p>6 友達と文章を読み合い、説得力のある文章について考える。</p>		<p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・相手や目的に応じた文章の形態や展開の違いを理解している。</p>	<p>理し、根拠をあげて、構成に注意して、文章を書いている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 自分の立場を明確にして、「事実」「理由づけ」「主張」を整理し、説得力をもたせるために、構成を工夫して、文章を書いている。</p> <p>【Cへの支援】 指導者が文例を提示して、「頭括型」「尾括型」のいずれかの型を用いて主張と根拠を箇条書きにさせる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】 相手や目的に応じた文章の形態や展開の違いを理解している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 「頭括型」「尾括型」「双括型」の特長を理解したうえで、相手や目的に応じて効果的に使い分ける態度をもっている。</p> <p>【Cへの支援】 指導者が提示した文例の「型」について、その「型」の特長を教科書の説明から抜き出させる。</p>
2月	言葉の小窓4 類義語・対義語・多義語・同音語 言葉（解説）4 類義語・対義語・多義語・同音語	2	● 日常生活で使う言葉を、いつもと違った視点から捉え直す。	<p>1 類義語と対義語の意味や特徴を理解し、例文を調べたり、考えたりして用法を知る。</p> <p>2 多義語や同音語の意味や特徴を理解し、例文を調べたり、考えたりして用法を知る。</p>	伝国(1)イ(イ)	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・類義語と対義語、多義語や同音語について、興味をもって学習しようとしている。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・類義語と対義語、多義語や同音語について理解し、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】 類義語と対義語、多義語や同音語の意味や特徴をおおむね理解し、興味をもって課題に取り組んでいる。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 類義語と対義語、多義語や同音語の意味や特徴を理解し、興味をもって課題に取り組み、自らの生活言語を見直している。</p> <p>【Cへの支援】 P194「ハルとアキの会話」から、言葉は一義的に捉えられるものではなく、多様な意味や関係性をもつことを伝え、類義語と対義語、多義語や同音語を学習することの意味について考えさせる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】 使用される場面や観点により、意味や用法が異なることをおおむね理解している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 使用される場面や観点により、意味や用法が異なることを理解し、用例を調べたり考えたりしながら理解を深めている。</p> <p>【Cへの支援】 教科書の用例以外に、多くの身近な用例を示して気づかせる。</p>
	漢字の練習3	—	—	—	伝国(1)ウ(ア) 伝国(1)ウ(イ)	—	—
八 考 え を 交 流 す	レモン哀歌	1	● 語りかける言葉に向き合って、思いと向き合う。	<p>1 「レモン」のもつ意味や作者の実像などを重ねて詩を朗読することで、作品の世界を味わう。</p>	C(1)ウ C(1)エ 伝国(1)イ(イ) 言語活動例 C(2)ア	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・詩の内容や表現について、捉えようとしている。</p> <p>◇読む能力</p> <p>・詩の内容や表現に注目し、「わたし」が「あなた」にどのような思いをもっているかを想像している。</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】 詩の内容や表現について、具体例を示しながら捉えようとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 詩の内容や表現について、作者の事実と関わらせながらその特徴を捉えようとしている。</p> <p>【Cへの支援】 詩の内容や表現のどこに興味をもったかについて具体的に指摘させ、そこにどのような特徴があるのか考えさせる。</p>

る						<p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・「レモン」という語句に託された象徴的な意味について理解している。</p>	<p>◇読む能力</p> <p>【Bの判定基準】「わたし」から「あなた」への思いを表すうえで「レモン」がどのような役割を果たしているかを考えている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】「わたし」から「あなた」への思いを想像するうえで、作者の事実を関連させて考えている。</p> <p>【Cへの支援】詩に登場する「レモン」の意味や役割について一つずつ確認させる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】「わたし」が「レモン」と「あなた」とをどのように関連づけているか理解している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】「レモン」のもつ象徴的意味について、作品の内容や作者の事実をもとに深く意味づけて理解している。</p> <p>【Cへの支援】「レモン」がもつ、そもその特性とこの詩の中の「あなた」の特性との共通性について考えさせる。</p>
【話す聞く】 反対意見を想定して話すには	—	<p>(●相手に納得してもらえるように表現する。)</p> <p>(●反対意見を想定し、それに対する答えを考える。)</p>	1 話し合いのテーマを決定し、自分の立場とその理由、根拠を考え、反対意見を想定し、答えを考えて話す。	A(1)ア A(1)イ 伝国(1)イ(オ) 言語活動例 A(2)ア	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・相手に納得してもらうために、情報を収集したり根拠を明確にしたりして、意見を組み立てようとしている。</p> <p>◇話す・聞く能力</p> <p>・根拠となる材料を整理し、根拠をもとに反対意見に対する答えを考えて話している。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・相手や目的に応じて話や文章の形態や展開に違いがあることを理解している。</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】相手に納得してもらうために、情報を収集したり根拠を明確にしたりして、意見を組み立てようとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】根拠のあげ方に客観性があり、立場の異なる情報も収集しようとしている。</p> <p>【Cへの支援】他の学習者の表現を聞かせ、話の組み立て方を再度考えさせる。</p> <p>◇話す・聞く能力</p> <p>【Bの判定基準】根拠となる材料を整理し、根拠をもとに反対意見に対する答えを考えて話している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】根拠となる材料を整理し、より説得力のあるものを選択して、根拠をもとに反対意見に対する答えを考えて話している。</p> <p>【Cへの支援】他の学習者が整理した情報を根拠の参考にし、考えられる答えを書き出させる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】相手や目的に応じて話や文章の形態や展開に違いがあることを理解している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】相手や目的に応じて話や文章の形態や展開に違いがあることを理解して、反対意見に対する答えや考えの形成に利用している。</p> <p>【Cへの支援】自分の伝えたいことは何かをもう一度確認させ、どのように答えれば説得力をもたせられるかについて考えさせる。</p>	
文法の小窓3 付属語のいる	2	●付属語にはどのようなものがある	1 教材文と「解説」を読み、助詞や助動詞のはたらきに	伝国(1)イ(エ)	◇国語への関心・意欲・態度 ・付属語の種類とその用法について	◇国語への関心・意欲・態度 【Bの判定基準】助詞と助動詞の種類や文意に与える影響を考えようとして	

		いる	のかわを知る。	ついで理解する。 2 助詞の役割とはたらき、助動詞の種類とはたらきについて理解する。		知ろうとしている。 ◇言語についての知識・理解・技能 ・付属語の種類とその用法について理解している。	いる。 【Aの具体的な姿の例】助詞の種類や助動詞の意味を積極的に理解しようとし、それらを用いることで文意がどのように変化するかを説明しようとしている。 【Cへの支援】助詞や助動詞にマーカーを付した例文を提示し、付属語がどのようなものかについて関心をもたせる。 ◇言語についての知識・理解・技能 【Bの判定基準】助詞と助動詞の種類や文意に与える影響について理解している。 【Aの具体的な姿の例】助詞の種類や代表的な助動詞の意味を理解するとともに、それらを用いることで文意がどのように変化するかを説明している。 【Cへの支援】助詞や助動詞にマーカーを付した例文を提示し、付属語がどのようなものかを実感させる。
	漢字の広場4 同音の漢字	1	●同音の漢字についての理解を深める。	1 同音の漢字について理解し、身のまわりの同音語を見つける。	伝国(1)イ(イ) 伝国(1)ウ(ア) 伝国(1)ウ(イ)	◇国語への関心・意欲・態度 ・同音の漢字について興味をもち、それについての知識を深めようとしている。 ◇言語についての知識・理解・技能 ・同音の漢字について理解し、その意味の違いに注意しながら正しく使っている。	◇国語への関心・意欲・態度 【Bの判定基準】同じ音をもつ漢字について興味をもち、身のまわりの言葉から多くの同音語を見つけ出そうとしている。 【Aの具体的な姿の例】国語辞書を利用して、多くの同音語について調べようとしている。 【Cへの支援】教科書P279「小学校六年で学習した漢字」を用いて、同音異字を集めさせる。 ◇言語についての知識・理解・技能 【Bの判定基準】同音の漢字を文脈に応じて正しく選択している。 【Aの具体的な姿の例】いくつかの同音語を用いた文を作っている。 【Cへの支援】「かん」などの音を例示し、小学校学習漢字の中から同音の漢字を考えさせる。
	走れメロス	7 (内、書1)	●登場人物や語り手のものの見方や考え方についての理解を深め、自分の考えをもつ。 ●描写や人称の使い分けなどに着目し、人物像や心情を表すうえでの役割や効果を捉える。	1 全文を通読し、新出漢字や難意語句について理解する。 2 全体の構成を捉えるとともに、第一場面、第二場面を音読し、状況(場面)設定や、人物設定についてまとめる。 3 第三場面、第四場面を音読し、できごとをまとめるとともに、そのことについての自分の考えもまとめる。	C(1)イ C(1)エ 伝国(1)ア(ア) 言語活動例 C(2)ア	◇国語への関心・意欲・態度 ・文章に表れているものの見方や考え方について関心をもち、自分の考えをまとめようとしている。 ◇読む能力 ・文章に表れているものの見方や考え方について理解し、自分の考えをもっている。 ・描写や人称の使い分けなどに着目し、人物像や心情を表すうえでの役割や効果を捉えている。	◇国語への関心・意欲・態度 【Bの判定基準】登場人物や語り手のものの見方や考え方について関心をもち、自分の考えをまとめようとしている。 【Aの具体的な姿の例】登場人物や語り手のものの見方や考え方について関心をもち、知識や体験と関連づけて自分の考えをまとめようとしている。 【Cへの支援】メロスが再び走り出した理由や、ディオニスの考えが変化したことに関心をもたせ、自分だったらどうなるかという観点から自分の考えをまとめさせる。 ◇読む能力 【Bの判定基準】登場人物や語り手のものの見方や考え方について理解し、自分の考えをもっている。

			<p>4 第五場面、第六場面を音読し、メロスとセリヌンティウスの言動や心情、ディオニスの変化を捉え、そのことについて自分の考えをまとめる。</p> <p>5 シラーの『人質』と比べ読みをすることにより、『走れメロス』に特徴的な点を明らかにする。</p> <p>6 語りの特徴を踏まえて読みをまとめ、感想や意見を交流することによって自分の考えをもつ。</p>		<p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・文章に用いられるさまざまな表現に着目し、その効果について考えている。</p>	<p>描写や人称の使い分けなどに着目し、人物像や心情を表すうえでの役割や効果を捉えている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 登場人物や語り手のものの方や考え方について理解を深め、知識や体験と関連づけて自分の考えをまとめている。</p> <p>語り手による三人称と一人称との視点の変化を理解し、そのことが作品に与える効果を捉えている。</p> <p>【Cへの支援】 人物像が読み取れる描写、せりふ、行動を丁寧に捉えさせ、その人物の行動の変化に着目させながら、その意味するところについて考えさせる。</p> <p>一人称で語られる心情の部分や三人称で語られる部分との違いに気づかせたうえで、その効果について考えさせる。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】 作品に用いられているさまざまな表現に着目し、その効果について考えている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 比喩表現や漢語表現、繰り返し表現などを探し、作品にどのような効果を与えているかを理解している。</p> <p>【Cへの支援】 教科書P221「言葉・表現」の項などを参考にしながら、具体的な表現について、その表現を用いなかった場合と比較させたうえで考えさせる。</p>	
			<p>7 サイドストーリーとして「空白の三日間」を自由に想像し創作することで、読みを深める。</p>	B(1)ウ	<p>◇書く能力</p> <p>・描写や心情が相手に効果的に伝わるように書いている。</p>	<p>◇書く能力</p> <p>【Bの判定基準】 描写や登場人物の心情が相手に効果的に伝わるように創作をしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 登場人物の心情が、時間の経過とともに変化するようなストーリーを創作している。</p> <p>【Cへの支援】 デイオニス、セリヌンティウスが描かれている場面を再読させ、自分の立場に置きかえたらどう感じるのかという観点で考えさせる。</p>	
3月	【話す聞く】 役割を決めて 討論する	5	<p>●目的や自分の役割をふまえて、グループで討論する。</p> <p>●相手の意見を尊重し、自分の考えを広げる。</p>	<p>1 社会生活の中から話題を決め、自分の考えをもつ。</p> <p>2 「話すこと」「聞くこと」の既習事項を確認する。また、役割や討論のあり方を理解する。</p> <p>3 テーマと役割を決めて、グループで討論を行う。</p> <p>4 前時の課題を踏まえ、役割を変えて、討論を行う。</p>	<p>A(1)オ 伝国(1)イ(オ) 言語活動例 A(2)イ</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>・社会生活の中の話題について、司会や提案者などを立てて討論を行おうとしている。</p> <p>◇話す・聞く能力</p> <p>・相手の立場や考えを尊重し、目的にそって話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げている。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>・相手や目的に応じて、話や文章の</p>	<p>◇国語への関心・意欲・態度</p> <p>【Bの判定基準】 社会生活の中の話題について、司会や提案者などを立てて討論を行おうとしている。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 課題を解決しようという意識をもち、互いの発言を検討しながら目的にそって討論を行おうとしている。</p> <p>【Cへの支援】 教科書P226～227の「討論の例」を参考にし、話題にそった発言をさせる。</p> <p>◇話す・聞く能力</p> <p>【Bの判定基準】 相手の立場や考えを尊重し、目的にそって話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げている。</p>

			5 討論を振り返り、役割を決める意義について考える。		形態の違いがあることを理解している。	<p>【Aの具体的な姿の例】 互いの発言を検討して自分の考えを広げ、課題解決に向けた次の発言につなげている。</p> <p>【Cへの支援】 教科書P225の役割ごとの話型を確認させ、その発言にそった内容で発言するように指示する。</p> <p>◇言語についての知識・理解・技能</p> <p>【Bの判定基準】 相手や目的に応じて、話や文章の形態の違いがあることを理解している。</p> <p>【Aの具体的な姿の例】 討論にふさわしい話し方を考え、自分の役割や聞き手を意識した言葉づかいがなされている。</p> <p>【Cへの支援】 教科書P226～227の「討論の例」を参考にして、討論の場にふさわしい話し方を考えさせ、その言葉を使って話すよう指示する。</p>	
	漢字の練習4	—	—	—	伝国(1)ウ(ア) 伝国(1)ウ(イ)	—	—

時数合計 118時間（内、話すこと・聞くこと15時間、書くこと30時間）

※本表中、「反対意見を想定して話すには」「漢字の練習」の時数や学習活動などについては、適宜扱う。

※本表中、「教材目標」欄に（ ）で示してあるものは、教科書では目標として示していないが、想定される目標として設定したものである。

※本表に記載のない教材（「四季のたより」「本の世界へ」「言葉と仕事」「ことばの散歩道」「言葉の自習室」）については、適宜扱う。